



## コーヒー *canvas*

今回は、当団体「就労継続支援 B型  
それいゆ」のスタッフがサービス管理  
責任者研修中に縁が繋がった、同じく  
「就労継続支援 B型キャンバス」に  
伺いました。コーヒーの香りに包まれ  
た、心地よい居場所でした。

コーヒーの香りに包まれて やりたいことをカタチに

# ひまわり通信

Vol.3 2020.12.

“どんなに重い障害があっても地域で共に生きる社会”を目指して

発行：特定非営利活動法人 ひまわり事業団  
静岡障害者自立生活センター

〒422-8006 静岡市駿河区曲金 5-4-58  
TEL : 054-288-6068 FAX : 054-287-4922  
E-mail : himawari@scil.jp HP : <https://www.scil.jp>

# CANVAS

コーヒーの香りに包まれて  
癒しのひとときを、お届けします。



今回は、静岡市清水区船越にある就労継続支援B型事業所「CANVAS」を訪ねました。  
「CANVAS」さんは、船越にある事業所でコーヒー豆の焙煎～販売までされています。

更に、今年3月には同区草薙一里山にカフェをオープンしました。

事業所内はコーヒーの良い香りと元気なメンバーさんの笑顔で溢れています。メンバーさんは、ファッショニモデルとして活躍されている方、絵画でアーティストとして活躍されている方、パソコンでデザインを得意とされている方等、その才能豊かさにびっくりです！

ゆったりとそれぞれのペースに合わせて  
やりがいのある時間を過ごす

草薙のカフェでは自動焙煎機が置いてあり、カフェで使う豆の焙煎とアーモンドのローストを行っています。実際にローストアーモンドを作っていたらしく、店内はアーモンドの甘い香りで一杯になりました。おいしいコーヒーとアーモンドの香りで、これぞ癒し！という感じでした。フレンチプレスで淹れてくれるコーヒーもとても美味しいです。

3月にオープンしたこちらのカフェは、CANVASのメンバーがカウンターに立ち接客を行う予定でしたが、コロナの影響により現在はまだ行っていません。カウンターに立つメンバーさんに一日も早く会える日が来るといいですね！



●カフェの営業時間●  
10:30～18:30  
月～木曜日(不定休)  
(日・祝日定休日)

↓アーモンドが宙を舞う様子から「空飛ぶアーモンド」が命名されました。

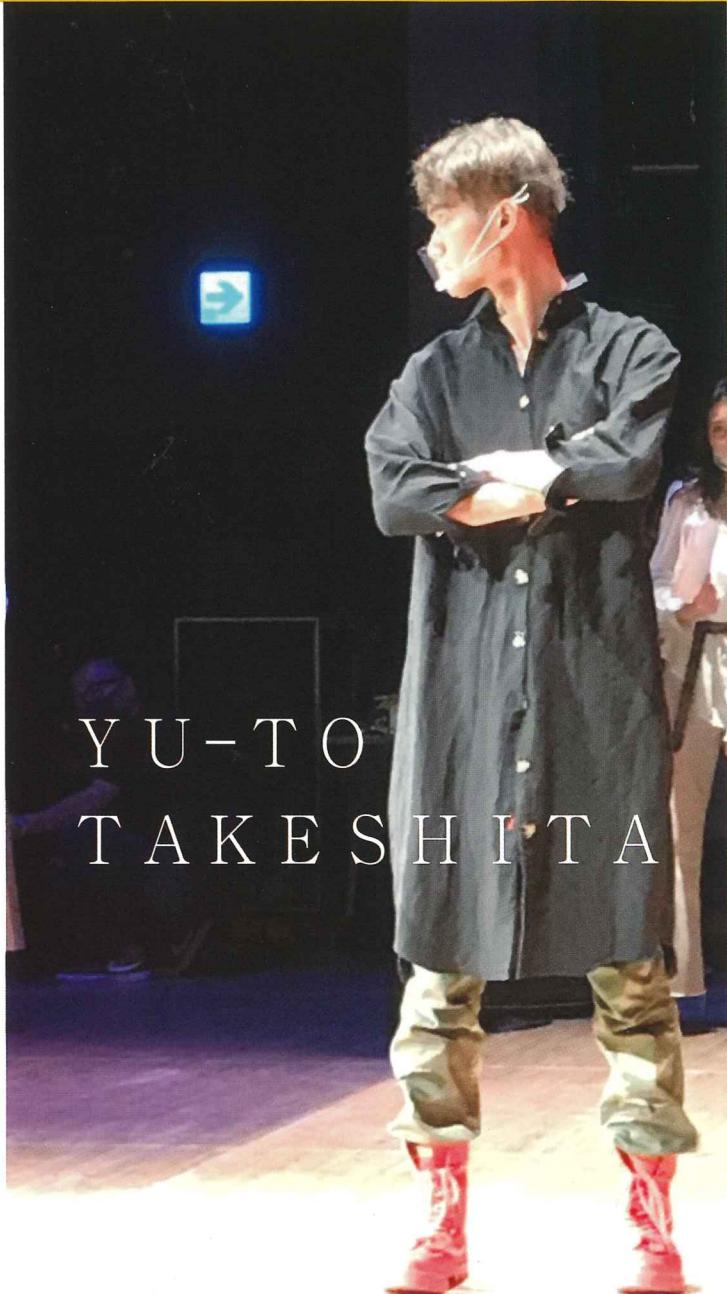


CANVASからのお知らせ

キャンバスメンバーの出場決定！ 福祉文化と珈琲文化の融合。障がいのあるバリスタや焙煎士が活躍するロースター  
カフェ「チェレンジコーヒーバリスタ2020」が、2021年5月東京品川プリンスホテルにて第1回目開催！！

書類審査を通過した、全国から10チームのみが参加可能。キャンバスメンバーが4～5人でチームを編成して出場します。

# A fashion show L O O K @me



Y U - T O  
T A K E S H I T A

〈友斗君から〉 練習、楽しかったです。本番は緊張して、ライトもまぶしかったけど上手にできて良かったです。頑張ってよかったです！嬉しかった！！もっと難しいレッスンにも挑戦していきたいです。みんなに見てもらえるのが楽しみです。また、ファッションモデルの機会があったらやってみたいですね。

竹下友斗(たけした ゆうと)

17歳からグループホームな～らに入居、同時に就労継続支援B型それいゆに通う、現在24歳。185cm程の長身を生かし、昨年からモデルにチャレンジ中。



〈健斗君から〉 僕の夢は世界中のステージに立つモデルになって、たくさんの方にパワーを届ける事！そして自分らしく生きる事！美味しい珈琲の為の焙煎士にもなりたいです！

泉 健斗(いずみ けんと) -kento- 20歳 Tenbo 専属モデル。

静岡県立北特別支援学校卒。友斗君よりモデル歴は長く、「LOOK@me」の他、多くのファッションショーに出演。

今回のファッションショーは、YouTubeにて「みらいと るくあつとみー」で検索いただと動画で見ることができます。始まって10分位のところで友斗君のランウェイが見られます。

静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらいと」が行うファッションショー、「LOOK@me」に、今年も当団体それいゆに通う、竹下友斗君が出演しました。(写真左)

今回、モデルの大先輩で前ページの CANVAS に通う、-kento-も紹介！(写真右)



もちづき かつこ さん  
望月 賀津子 さん

介助派遣サービスひだまりの前身のホットハートからヘルパーとして勤めて26年が経ちました。



ヘルパーさんの働いているONの時間、自分の時間を楽しむOFFの時間をご紹介。

今でも初めて利用者さんにケアに入る時はドキドキしちゃいます。おっちょこちょいは直らず、利用者さん、事務所、ヘルパーさんには迷惑のかけっぱなしですが、いつも温かく受け入れてくださり感謝しています。80歳まで現役で頑張ります。これからも、よろしくお願いします。

ON time  
OFF time

遊ぶ事は、私の原動力です。

水曜日の午前は、ママさんコーラスに通っています。声を出して歌う事はストレス発散ですね！

今はコロナで自粛していますが、清水エスパルスの応援、コンサート(永ちゃん)、食事会、旅行と出かけることが大好きです。そうそう、月1度、女性にリセットするために着物の着付け教室に通っています。

2020.10.24

## ボッチャ交流会

地元小学生に、  
ボッチャ講師として招かれました。

今年で3度目を迎えるボッチャ交流会！コロナ禍中ではありますが、常連となった小学生の元気な姿を見ると安堵を覚える瞬間もあります。

4チーム作り、それぞれに生活介護それいゆの利用者が1名ずつ入り個性的なチーム名を付け、いざボッチャ開始！

既に慣れた様子で改めて詳しいルールの説明をする必要も無く、それぞれが特定の位置で待機。ジャックボールと呼ばれる白いボールを先に投げ、後は2チームが交互に赤青のボールを投げ合い、ジャックボールに一番近いチームが勝ち！投げたボールが思い通りの所に行く度「すごい！」や「やったー！」と言った大きな歓声が生まれ、負けたチームは「悔しい！」と声を上げ、白熱した試合運びとなりました。

生活介護それいゆの利用者の中には、自分でボールを投げられない人の為に「ランプス」と呼ばれる長いレールを使用し、小学生にも補助のお手伝いをしてもらうなどの経験ももらいました。今回はコロナの影響で開催時間の短縮となりましたが、みんなが夢中となり、健常者と障がい者が分け隔てなく楽しめるボッチャをこれからも続けて行こうと考えています。

### 生活介護それいゆ 活動報告



文:吉岡佑真



「ランプス」を用いて投球する様子。(左)



農園の方の指導の下、皆で必死に芋堀りを体験。全長50m以上の畑を見事綺麗に掘り起しました。取った芋は2週間寝かせた後、グループホームで焼き芋になる予定です。

## グループホーム ななーら 活動報告

2020.11.8

### 遠州芋ほり

久々！コロナ禍の外出に笑顔。

11月初め、遠州にある「赤ずきんちゃんのおもしろ農園」へ薩摩芋掘り体験に出かけました。こちらの農園はイチゴやメロン等、季節の農作物に触れることができる体験型農園です。

今回一緒に外出したグループホームの住人の皆さんには初めて芋掘りを体験されるということで、とても楽しみにしていました。

この日は、晴天に恵まれたものの強風が吹き、畑の砂が目に入るアクシデントに見舞われました。「これが遠州の空つ風！！」と、こちらも身をもって体験することになりました。

芋掘り体験前に、農園のスタッフから実演交えて掘り方のコツが丁寧に説明され、その後、皆で芋掘りスタート！！となりました。説明通り丁寧に芋掘りをするから、これぞ「芋づる！」といったように沢山の芋を掘ることができました。農園の方が、遥か彼方を指差し「あっちの方まで掘っていいよ。」と声をかけられたので、皆次々と畑の芋を掘り起し、コンテナ山盛り2杯分の芋が収穫できました。が、持ち帰りは制限がある為、農作業手伝い体験のような1日になりました。

帰りの車中では、「焼き芋」「天ぷら」「芋ご飯」「味噌汁」等々、食べたい芋料理を皆で話し合い最後まで楽しい外出となりました。



文:清水かおり



・ひまわり事業団を支える人 その3・

看護師・ケアマネジャー

まるやま くみこ  
丸山 久美子 さん

石川県金沢市出身。

高校卒業後、父親の仕事の都合で静岡県に家族で引っ越す。  
静岡に来て2年程会社勤めをした後、看護師になりたくなり、受験。  
静岡市立看護専門学校に合格し入学。  
卒業後、静岡市立病院や社会福祉協議会で看護師として勤務。  
平成15年 曲金訪問看護ステーション開設

ひまわり事業団の「頼り処」丸山看護師にお話を伺いました。

自己紹介お願いします。

私の出身は石川県金沢市で、高校卒業まで住んでいました。父の仕事の都合で静岡市に家族で引っ越しました。今となっては静岡市の方が長く住んでいます。

静岡に来た時2年ぐらいOLをしていましたが、看護師になりたくなり、受験して静岡市立看護専門学校に合格し入学しました。

看護学校3年生の11月に妹が突然倒れ、指定難病である多発性硬化症の診断で四肢麻痺になりました。

卒業して静岡市立病院に就職しICU/CCUに勤務していました。ICU/CCUについてですが救急車で来られる重症の方はICU、心筋梗塞などの心臓の疾患はCCUに入院します。さらに静岡市立病院は心臓の手

術が多く、手術室の次にICUに移動します。術後の管理が重要でICUのレベルはとても高かったです。看護師として多くのことを学びました。

多忙の職場で勤務の半分以上が夜勤でした。3年弱勤務しましたが、結婚が決まり妹の介護もあるので退職して近くのクリニックにパートで勤めました。2人の子の臨月まで働きましたが、その後は4人の子供の育児のため専業主婦になり無職で過ごしました。末の子が幼稚園に入園をしばらくぶりに自由時間ができ、後輩に誘われて社会福祉協議会でパートの訪問看護師として勤めはじめました。

2000年からはケアマネの仕事も兼務しました。

事業所の立ち上げやひまわり事業団との関わりは、どんなことから?

訪問看護師時代に、ALS患者様を担当して、支援していくことがとても難しく、自分の無力さを感じました。もともと妹を母と介護していることもあります。在宅で療養生活をしている方の力になりたいと

思うようになりました。そして開業に向けて準備をしました。

平成15年に曲金訪問看護ステーションを開設しました。看護師が開設したのは静岡市では2番目でした。

その頃ひまわり事業団は、ノーマライゼーション実現に向けての活動盛んな時で、渡辺正直様をはじめとして林様、桑原様、山本様を受け持っていました。どんな状況でも強く生きておられる渡辺正直様たちの生活を見て、驚きとともに感動と尊敬の念を持ちました。

今はひまわり事業団で行われている第3号研修の吸引の講義や、医療的ケアの講師として関わらせていただいておりますが、実をいうと私はとてもあがり症で人前でお話しすると心臓がドキドキして声

が翻ってしまう状態でした。しかし、奥村様はそんな私とは知らず何度も研修講師を依頼をされていたので、今はあがり症がすっかり治ってしまいました。そのことでも本当に感謝しています。



第3号研修で実習指導の様子

現在の活動は?

私の活動としては静岡難病市民ケアネットワークのボランティアがあります。難病の方の外出支援やイベントのお手伝い(温泉旅行、水族館、外食、お花見、ハロウィンなど)と当事者やかかわる介護者に向けた研修を年間4~5回しております。自分のテーマである難病支援の一環として今も続けています。

本業の訪問看護ですが、現在訪問看護利用者117人、ケアマネ利用者は117人、福祉用具65人を社

員17人で運営しています。難病、高齢者、がん末期、障害者、小児など広く関わらせていただいているほかに看護学校の講師を4校、障害者団体の講師を引き受けていて超多忙の日々を送っています。

そんな時間のない私にとって楽しみは調理することです。梅干しやぬか漬け、ティラミスなどが得意です。ひまわり事業団で3号研修の時、ぬか漬けを持っていくためか、回を重ねるごとにランチの人数が増えて嬉しい気持ちでいます。

一言お願いします。

そして私には認知症の母が二人いて、二人ともに要介護3です。義母は義弟が在宅で介護しています。実母は妹が主介護者です。割りばしを使ってパソコンでネットスーパーの買い物をしたり、言葉かけやいろいろの工夫をして、妹が今まで介護してもらつた母を立場逆転になり介護しています。妹はもはや障害者ではないかもしれません。妹と93歳の父の頑張りで私も仕事を続けられています。

奇跡のようにやり遂げていますが、ヘルパーたちのお力がなければとてもできません。障害者に慣れているひだまりのヘルパーさんやほかの会社のヘルパーさんいつもありがとうございます。身内

を介護してヘルパーさんのありがたさがよくわかりました。

私が活動できるのはもう長くありませんが、必要とされている限りは続けていきたいと思います。病気があっても在宅で頑張っておられる方々の笑顔をたくさん見たいです。

そして関わっているスタッフの方たちのお力にもなりたいです。

これからもよろしくお願いします。明るく樂しくいきましょう!



# 重度障害者が 「死」ではなく「生」を 選択できる社会を！

## 京都 ALS 女性殺人事件から見えてくるもの

今 年の 7 月、私たちのもとに衝撃的なニュースが飛び込んできた。

ALS（筋萎縮性側索硬化症）を発症した京都市の女性に薬物を投与して殺害したとして、二人の医師が逮捕されたのだ。

捜査関係者によると、殺害された女性は以前から周囲に「安楽死させてほしい」と漏らしていた。二人の医師は SNS を介して女性と知り合い（直接の面識はなく）、彼女からの依頼を受けて自宅を訪れ、大量の薬物を投与し殺害したとみられている。

この事件を機に、一時ネット上には、安楽死を強く望んだ女性に同情と賛同を示す声が飛び交った。それは、まるで「ALS というとんでもない難病を背負ったのだから、死にたいと思うのが当然だ…」と言わんばかりであった。

## 事件に対する SNS の反応と医師会の会見

この数日後、医師会が会見を開き、この事件に関しての見解を述べた。その内容は、私たちとしても、とても納得のいくものだった。

まず、医師会は「医療の目的は患者の治療と人々の健康の維持増進である」と述べた上で、「たとえ患者から「死なせてほしい」と要請があったとしても、生命を終わらせる行為は医療ではない。患者の苦痛に寄り添い共に考えることが医師の役割」であると断言した。

次いで、「死を選ばなければならない社会ではなく、生きることを支える社会をつくることが大事」であるとし、「(ALS の) 治療法の確立を目指した研究開発、心のケア、介助の支援制度の拡充、患者・障害者がよりよく社会で生きていく技術の開発や普及…医師会がやるべきことを何かを追求していく」と最後に結んだ。

## やまゆり園事件と共通するもの

「ALS の人は“死にたい”と思うのが当然」という偏った認識は、「死を望む人を死なせてあげて何が悪いの…」という、今回の嘱託殺人を擁護しかねない論調につながる。

今回逮捕された医師も、自身のブログに「『日々生きていることが苦痛だ』という方には、一服盛るなりしてあげて、楽になってもらった方がいいと思う」と書いていた。

また、この医師は、ネット上に仮名で、「高齢者は見るからにゾンビ」などと投稿し、高齢者への医療は社会資源の無駄、寝たきり高齢者はどこかに棄てるべきと…書いていたが、こうした優性思想的考え方は、あの、やまゆり事件の植松死刑囚の「重度障害者は社会のお荷物…」といった主張とも共通するものがある。

人の命を、「生きる価値のある命」と「価値のない命」とに心の中で勝手に区別して、「生きる価値のない命」については、「生きるより楽に死なせてあげた方が本人のため、社会のため…」と一方的に決めつけてしまう…

## 私たちにできること

たとえ重度障害者であっても、治癒困難な難病者であっても、「死を選ばなければならない社会ではなく、生きることを支え合う社会をつくりたい…」。これが「共に生きる社会」を目指す、ひまわり事業団（静岡障害者自立生活センター）の目指すべき方向だ。

そのために、今の私たちに出来ることとは、いったい何だろう。

多少、当団体の宣伝色もあるが、再確認をする意味で書いてみた。（次ページ参照）

文：奥村 譲

## 安楽死とは……

安楽死には、積極的安楽死と消極的安楽死がある。前者は、医師などの第三者が薬物などを使用して死期を積極的に早めること。もちろん日本では認められていないので、加担した場合は、刑法上嘱託殺人罪に問われる可能性がある。ただし過去の判例（東海大学病院安楽死事件等）では、以下の 4 条件を満たした場合は、違法性が阻却される（罪に問われない）場合がある。

- ①患者本人の明確な意思表示がある。
- ②回復不可能で終末期である。
- ③心身に耐えがたい重大な苦痛がある。
- ④死を回避したり苦痛を緩和する代替の手段がない。

これに対して、消極的安楽死は、延命措置を行わないことなどで患者が自然に死を迎えるのにまかせることで、一般的に尊厳死の概念はこちらに近いとされている。

# ひまわり事業団が実施する 重度障害者の地域生活支援

## 重度訪問介護を使った、一日 24 時間 365 日のヘルパー派遣

たとえあなたが、突然 ALS を宣告されたとしても、「家族に迷惑がかかる…」、「妻（あるいは夫）が仕事を辞めて介護に専念しなければならない…」と悲観する必要はありません。日本には重度訪問介護サービスという制度があり、交渉次第では、24 時間 365 日の公的ヘルパーを使って家族の負担なしで生活することができます。（但し、場合によっては介護保険併用）

### 「でも深夜にヘルパーは派遣してくれないでしょ？」

大丈夫です。当団体のヘルパー派遣事業所「介助派遣サービスひだまり」は、24 時間 365 日のヘルパー派遣をしています。

## 重度訪問介護ヘルパー養成研修の開催

当団体では、県の許可をとって重度訪問介護ヘルパー養成研修を毎月開催しています。ヘルパーの資格や経験がまったく無い方でも、この研修を受けていただければ、最短 3 日間で重度障害者や難病者のヘルパーをすることができます。

## 医療的ケアのできるヘルパーの養成

### 「でもヘルパーは、たんの吸引や胃ろうまではやってくれないでしょ？」

大丈夫です。当団体は県の許可をとって、3 号研修（介護職員たんの吸引等研修）を定期的に開催しております。この研修を修了すれば、ヘルパーでも、吸引や経管栄養など一定の医療行為ができるようになります。

## 地域で生き活きと暮らす仲間たちのアピール

当団体のまわりには、ヘルパーを使って、外出を楽しんだり、趣味に没頭したり…と、地域で生き活きと暮らす重度障害や難病の仲間がたくさんいます。いつでもご相談いただければ、心強い先輩たちが、きっとアドバイスをしてくれますよ。

今回の事件に関して、  
ALS 当事者であり、  
NPO 法人 ALS/MND  
サポートセンターさくら会  
副理事長  
橋本 みさお 様 より、  
コメントをいただきました。



### 〈橋本みさおプロフィール〉

1985 年、32 歳で ALS を発症。ALS 患者として世界を飛び回りながら精力的に活動。2006 年、患者としては世界初の ALS/MND 国際同盟会議「人道賞」を受賞。2020 年、吉川英治文化賞受賞。喀痰吸引等の法制化、ALS 等の医療を常時必要としている人の単身独居の推進など、これまでの活動が総合的に評価された。

この事件に触れて思ったことは、まず当日のヘルパーの気持ちと主治医の気持ちです。自分を責めているのではないかと今も思っています。必殺仕事人ではないのですから、コミュニケーションの取れる人を相手にして欲しかった。  
公判が始まるのは春になるらしいけれど、必ず傍聴したいと考えています。

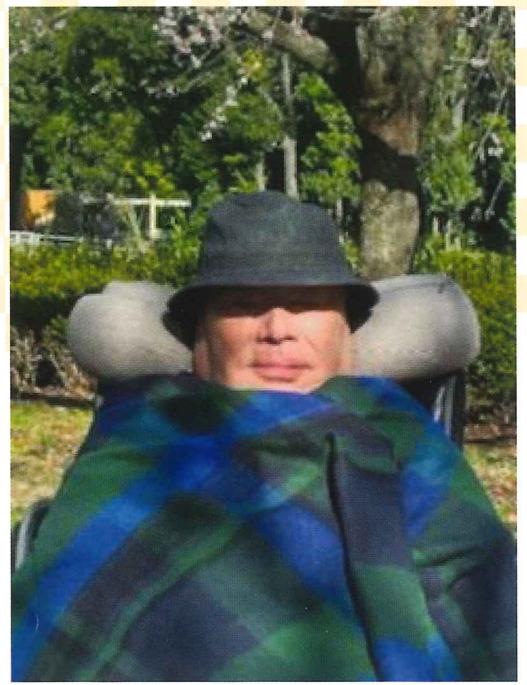
私はやまゆり園事件より、むしろ座間のネット事件と似ていると思います。  
コミュニケーションの取れる人が、「自殺したい」と呟いただけで、9 人も殺されました。ALS のコミュニケーション障害は、SNS に「死にたい」と絶対に呟いてはいけません。死にたい人がいるだけ、殺したい人がいるのです。  
これが報道された理由は ALS だったからでしょうね。

普通なんですよ、ALS は。  
ただし、家族で介護できると思わないでください。絶対に潰れます。  
こんな言い方をするといけないことはわかっていますが、ALS 患者 1 人いれば、経済効果は抜群です。  
こんなことを年の終わりに書くのはいかがなものかと思いますが、皆さん良いクリスマスと新年をお迎えください。

## ヘルパー募集

ひまわり事業団では一緒に働くヘルパーを募集しています。  
未経験・無資格でも大丈夫！興味のある方はお問い合わせください。

TEL.054-288-6068 担当：奥村、宋



# 京都の ALS 患者の嘱託殺人で 思うことは

ちば まもる  
**千葉 護さん**

ALS 歴 21 年 誕生日：2月 22 日（今年傘寿！）  
血液型：O型 趣味：旅行、サッカー観戦  
長所・短所は基本、優しい（誰にでも…外面は最高）イコール  
優柔不断なところもある！

**2018** 年にスイスまで行って亡くなった女性のテレビを見た時は、動搖と強いショックを受けました。京都の方は、本当に死にたかったのだろうか？「生きたい、生きて居たい」と思っても、自分の思う様な生活ができない時など、障がい者も、健常者も変わらず、「もう嫌だ」と思う事が有るのではないだろうか？ましてや動けない身体と付き合っていかなければならぬ ALS 患者では、「生」と「死」の間で揺れ動くことも多かったと思うが、行政の理解もあり、24 時間の介助を受け、安定した生活が得られた時期もあっただろうに、なぜ？死に急いだのだろう。

「死」よりも「生きる」を考え、同じように苦しんでいる人たちの力になって欲しかった。そういう力を持っている方だったように思う。今、ALS 患者の生活向上のために、一生懸命活躍している先輩患者に続いて、私たちのような重度訪問介護を理解してもらはず、日々時間数を計算しながら暮らしている多くの患者のために力を貸してほしかった。  
残念でたまらない。

私は 20 年以上も前から ALS と共に生きてきた。80 歳過ぎた今も、死にたいと考えたことがない。「生きることを選択し頂いた命の限り生きていきたい。

生きていれば面白いことも沢山ある。痛い時も、痒い時も、苦しい時もいっぱいある。  
それ以上に嬉しいことも、楽しいことも沢山ある、そして忙しい。この忙しいのが私は好きだ。朝、ヘルパーさんが来ると「お父さん、おはよう」の挨拶から始まり(私のことを皆はお父さんと呼んでくれる)、私の打ったパソコンを確認し、朝の準備が始まる。

主な作業は、口腔ケア・髭剃り・洗髪・排泄の処理や身体の清拭・足浴手浴など、毎日のみなさんの介助のおかげでここまで元気に暮らしてきた。午後は曜日ごとに違うが訪問入浴やマッサージなど、土曜日には将棋などもする。楽しいと同時に認知症予防に



も、こんな日々を送っていることに、感謝しかない。「死」などとも考えられない。こんな毎日に私は「幸せ」を感じている。とても、この方々を裏切って「死」を選ぶことなど考えられない。



重度訪問介護の時間の足りない中でも、ボランティアやヘルパーの介護時間プラス、ボランティアとしての協力で外出をする。これが一番の楽しみです。外の空気は健康の元に成っている。こんな身体で、外出しなくともと言う様な「風」を感じることもある、現に時間の足りない月は外出を控えるようにとも言われている。

11 月に三島市の楽寿園と富士市中央公園に行った。中央公園のバラは花の数は少なかったが、美しく咲き、多くの人が楽しんでいた。楽寿園は初めてだ、菊祭りの最中で色々の工夫がしてあり、綺麗でした。久しぶりに見る菊の花は、花の形や色が増えていて、愛好家の努力に感動して帰ってきた。



ご家族、ケアスタッフ、ボランティアの皆さんと三島市楽寿園に出かけた様子。  
月に1回は外出を楽しんでいます。

最後に私の重度訪問介護の時間数は外出も含めて、380 時間を頂いています。ありがたいことだと思います。でも、もう少し、「増やして欲しい」。10 月は 31 日までと曜日の関係で、いつもの介護計画を作ることが出来ず、時間数を減らさなければならない曜日もありました。このような事の無いように行政や相談員、ケアマネジャーに何度もお願ひしてきましたが、変わることはありませんでした。

こういう時「生きていてはだめなのですか」と聞いたくなる事もあります。

# とおるの トーク

今日は僕自身の話・その1・

今回は趣向を変えて、ぼくの体験してきたことの一部を書いてみますね。

約12年前脳性麻痺の二次障害で全身に力が入らなくなり、それまで住んでいた水落町のワンルームからベッドの置ける、この中田の部屋に引っ越してきました。ここも駅近くでセノバの映画館にも徒歩で行けたりして、住み心地はいいほうです。水落町もそうでしたが映画やコンサートにはすぐに行ける場所に住むのがぼくの家探しの基準です。

麻機の実家を出て、1988年から水落町のアパートで独り暮らしを始めたので、そこでの思いはたくさんあります。手話やトーキングエイドが使えていたので、ナンパも出来たりもしました。観たい映画やコンサートには足しげく通い、毎週水曜日の夜には手話サークルにも出ていました。六畳の部屋には広末涼子の特大カレンダーを飾り、毎年変えてました。

また、夜中に呑みに行って、度を過ぎした拳旬に急性アルコール中毒で救急搬送されること2回、病院で導尿や点滴をしながら「やっちまったな、もう二度としない」と、思ったのに2回も運ばれてしまった。お酒にはこんな話も。電動車椅子で飲酒運転をしてパトロールの警官の足を轢いたこともあります。逃げたんだけどね、捕まって、まだ生きていた母さんが呼び出された。あの頃は、身体が動かせたから、麻機の田舎にいて行動が制限されていた分、やんちゃし放題でした。今思うのは良い悪いは別として、やりたいことを精いっぱいやっていたことに悔いはないのは確かに言える。

電動車椅子は3回変えていてセニアカーからイマセン標準タイプになり、最終的にはインバケア社のスピードが出るものに行きつく訳です。これは道交法に抵触するので公にはできないけど、業者に頼んでコントローラを調整すると12キロまで速く出来たのです。ぼくには最高のおもちゃになりました。ヘルパーも歩いてはついてこられないため自転車に乗ってもらっていました。

母さんが乳がん手術で入院したのは97年だった。困ったぼくは手話通訳を頼んで役所に行った。社協のヘルパーが来ることになったが、とても窮屈な生活になった。ヘルパーが来る時間を決められてしまい、おちおち遊んでもいられない。これじゃ施設と同じだな、と考えた。結果、登録ヘルパー制度を使えるようになった。

(ここまで書いて字数オーバーに気付いた、なので後半は次号に続く)

文：静岡障害者自立生活センター 橋本とおる

【編集後記】コロナ第二波がおさまり、秋に少し気が緩んでいるところに、第三波がやってきた。事務所の近くの総合病院や同業の事業所でもクラスターが発生し、当法人まで感染が及ぶのは時間の問題か？と、コロナの脅威におびえながらの今号の機関紙編集作業であった。写真に写る人物のほとんどがマスクを着用しているのも、いかにもコロナ禍時代の機関紙といえるが、マスクを外して自由に街を歩ける時代はいったいいつ来るのだろうか…

広報委員：奥村 譲